湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学

所 属　保健医療学部看護学科

名 前　川本利恵子

作成日　令和 6 年 8 月 23 日

1.　教育の責任

私、川本利恵子は看護学部看護学科学科長及び教授として、看護学科全体のカリキュラムの構築および運営の統括を担うとともに、現在は、主に基礎看護学領域と看護教育学を担当している。湘南医療大学へ着任後に担当した主な教育科目は成人看護学領域に関する内容が主であった。私の担当科目の特徴は看護学部 1年から4年までのすべての学年に開講されていることと、看護学教員全員での運営や、統合にかかわる科目が多いことである。

具体的には、1年次は看護学概論、看護基礎ゼミ、チーム医療論や基礎看護学領域のナーシングスキル・ナーシングプロセスおよびヘルスアセスメントという科目で、看護の核となる理念や基盤形成となる知識と看護実践能力のスキルについて、講義演習を通して教授している。2、3 年次は、地域看護方法論などの特に健康障害に関する看護問題を扱う臨床看護領域の知識や技術を積み上げられるよう学習内容を発展させ応用力を深め、看護の幅広い知識や技能に関する能力に関し、講義演習を通して教授している。4年次の統合看護実習においては、学生がこれまで興味関心を持っていたが学習できなかった内容を中心に、主体的に学習を行うことに腐心している。また、他学部、学科の学生にも保健行政論や看護論を教授している。

各授業のシラバスは湘南医療大学 シラバス(冊子体)および WEB 上でも本学学生並びに教職員に公開されている

2.　私の理念・目的

1)私の理念

湘南医療大学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を建学の理念としているが、「人とのふれあいを通して、他者を思いやり、全て生あるものに感謝し、その人らしさを大切にし、全ての人々の幸せに役立つことを期すること」を大学の教育目的として学則にも明示している。こうした理念を基盤として、「継続的学習力、想像力、そして課題解決能力」を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識の・技術の修得を基盤とした「人権や生命の尊厳を慈しみ、感性を享受するための専門教育」を追求し、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成が重要であると考えている。この大学の理念を実現するために、私は豊かな人間性と高度な専門性と自律性をもち、かつ看護の現場で協働しチーム医療を推進できる人材の育成が重要と考えている。また、一方で日本の保健、医療、福祉に求められている社会的ニードは年々高くなっている。そのため看護学を学ぶ学生に対して、正しい知識と技術のみならず倫理観について、学習を深めることができることが重要である。そのために、教育理念に基づいた教育に真摯に取り組まなければならないと考える。

2)理念をもつに至った背景

前述したが、看護学を学ぶ意義や根拠に基づいた看護ケアの重要性について興味関心を持つように、かつ理解しやすく具体的な教育を構築したいと考えているが、そのためには教育理念が重要である。。私が担当する授業科目は、看護学部 1 年次生から 4 年次生の需要な必修科目が多い。 1 年次は基礎分野の科目から看護の専門科目の知識の学修に取り組み始め、4 年次は

国家試験を目前にそれまでの知識・実習の集大成として統合を図る学年であるが、理念に基づくとともにその授業内容を充分に検討し教授する。

今後は、少子超高齢社会に伴う人口構成が大きく変わった日本の現状はより厳しくなり、今後の2040 年の問題は医療介護の人材不足といわれているが、特に医療の専門職を育成することが私達の使命であると考えている。そのために私は豊かな人間性と高度な専門性と自律性をもち、かつ看護の現場で協働しチーム医療を推進できる人材の育成が重要と考えている。

3.　教育の方法・戦略

看護の基礎と応用科目の目的は、看護の役割と機能を知ることである。そのためには、まず健康障害に伴う症状、治療による生活の影響に関心を持ち、理解することが重要である。そこで、視聴覚教材を活用し、興味や関心が持てるように心がけている。さらに、実習などは自己の生活経験や出来事を結びつけて考えるように働きかけることが、教育上有効である。看護は生活をしているこの社会の中の人にあるので、日々の生活にもアンテナを張っている。学生の感性を刺激しつつ、感情の変化が起こるような授業と実習を日々心がける。日常のトピックスなども授業教材として重要であり、身近な TV やネットなどでの話題や社会問題も学生へ提示し、興味や関心を引きたいと考えている。

教育方法としては、、対話の教育を基本としたアクティブラーニングに心がけるとともに、反省的思考をシミュレーション教育や創造的な刺激で学生が振り返ることができるよう工夫している。追体験を行うことができるような働きかけを組みこむために、看護師との対話の場面提示やエピソードを聴く機会を得ることも教育方法として非常に重要である。

これまでも述べたように、担当科目の特徴は看護学部1年から4年までのすべての学年に開講されていることと、看護学教員全員での運営や統合にかかわる科目が多いことである。そこで、教育を改善するための努力としては、授業評価アンケートを行うとともに、アンケートの回収率の向上と評価得点の向上と学生の教授方法希望について対応を行うことで教授方法の改善を図っていきたい。

まずは、評価アンケートの実施方法および質問項目の改善が必要である。臨地実習は実習に即した回答しやすい質問内容の検討・改善を行う。そして、実習最終日の最後の時間内に授業評価アンケートの回答時間を設けるなどである。結果に基づく教授方法の改善は、配布資料など教材使用の周知、 事前課題・グループ演習で使用する配布資料を学生と教員が統一した見解で使用できるように工夫することである。

授業評価アンケート結果は、前年度より平均値をあげ、FD・SD研修に参加し、他の教員からの評価を直接受け取り、その評価内容に基づく改善に取り組む。

4.　学習成果

本学では年２回、教育活動の評価・成果として前期と後期に学生による授業評価アンケートを実施している。さらに、毎回授業終了時にコメントカード（リフレクションペーパー）の提出を学生に求

めている。担当科目の教育活動の評価と成果、学生からの授業評価やコメントは以下の通りである。

以下に授業評価アンケートの結果の概要を示す。

1） プロフェッショナル論 I

2 年生 35 名の学生からの回答であるが、学習意欲、探究心、自発性は学科の平均得点を上回っていた。・授業の良かった点は、事例に基づいた授業であったこと、幅広い分野のプロの看護師さんの経験や知識を学ぶことができたこと、専門看護師の資格を持っている先生方から、専門分野の講義を受けれたこと、先生がすごい人だった・改善すべき点は、グループワーク数が多かったが、教員数が少なかった

2） チーム医療論 I

35 名の学生からの返答で、学習意欲、向上、探究心は学科の平均得点を上回っていた。・授業の良かった点は、グループワークなど積極的に意見交換の場があった、チーム医療について細かく学べた、他職種の理解が深まった・改善すべき点は、グループ毎の発表時間制限、課題提出に関するの連絡が曖昧だった

3） 看護論

薬学部 27 名中 8 名の学生からの回答があり、定着度、熱意、進行速度、内容量、課題量など 9 項目で平均を上回っていた。総合評価も薬学部平均を上回っていた。

5. 改善のための努力

これからも、科目責任者として 1 年生の授業を担当することが多いが、学生はまだ人生経験も少なく、学習者としてのレディネスも未熟であり、看護学については初学者であることも配慮することが重要である。そこで、学生が疾患や患者のイメ ージを具体的に持つことができるよう、視聴覚に訴えるなどの教材の工夫をし、理解しやすくかつわかりやすいように興味、関心を高める授業方略を工夫する。授業を通しての学生の反応や授業評価、他者評価も参考にし、今後も授業内容や方法を評価し、改善を継続する。

6. 今後の目標

1）長期目標：本学の教育理念に基づき、学士力や看護実践能力育成を基盤に、高度な専門的知識の習得と豊かな人間性を育む教育を目標とし、看護師資格取得に向けた学生教育と支援を行う。さらに、自律した専門職業人となるために向けた自己研鑽に向けた教育に取り組む。教育と研究の実践を通して学生のキャリア支援に貢献する。

2）短期目標：日々の学びを大切に、本学の6S 活動である礼儀、作法、環境美化活動を行う。さらに学生への講義実習と研究を通して看護実践能力の向上につながるように、学生の社会活動、進路決定等も自主的に取り組むように支援する。